清き野心を胸に秘め 故郷を去りし若人が 六華雪解に 佇みてりっかゆきげ たたず

し憩わんこの宿舎

明く迄語り日々は行き

酒飲み宴い

し夜は更けて

輝き永久に絶やさずや燈火闇に浮かび出づ

不断の尽力忘るまじがなったのなった。これゆくこの時にこそが、これのない。 常に寮生が高みなり埋想の自治を手にするは

丸田潤君 作歌・作曲